

## 2 だいず・そば・あずき病害虫

### だいず・そば・あずき病害虫重点防除指導方針

だいず、そば等は、大麦のあとの周年型作物として位置付けられている。  
特に、そばは中山間地域等における地域特産物として生産されている。  
収量・品質の高位安定化を図るため、耕種的防除対策に努めるとともに、病害虫の発生動向に注意して適正な防除を推進する。

#### 1 耕種的防除の推進

だいず、そばの栽培にあたり、排水対策を十分に行うとともに圃場および圃場周辺の雑草の刈り取りを推進する。

#### 2 主要病害虫の防除技術

紫斑病等種子伝染性病害を防ぐため、健全種子への更新および種子消毒を推進する。

葉焼病、ウコンノメイガは発生状況を確認し、遅れずに防除（臨機）を行う。

カメムシ類、シロイチモジマダラメイガ、フタスジヒメハムシを防除するため、子実肥大期を中心に3回（基幹）防除を推進する。

## (1) だいず病害虫の要防除水準

### カメムシ類の要防除水準

圃場内での調査を行い、カメムシ類の発生状況を的確に把握した上で、要防除水準に基づく効率的な防除を実施し、環境負荷の少ない防除を推進する。

#### 1 要防除水準

8月下旬（圃場侵入期）は100茎あたり0.3頭以上、9月中旬（発生最盛期）は100茎あたり4.0頭以上の場合は防除する。

#### 2 調査方法

8月下旬と9月中旬に、1圃場あたり100茎ずつ3か所の見とり調査を行う。

### フタスジヒメハムシの要防除水準

#### 1 要防除水準

8月下旬（第2世代成虫発生最盛期）に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合は直ちに防除する。

#### 2 調査方法

長さ150cm、幅80cmの払い落とし用シートを条間に広げてシートの両端から2人で両側の株をたたき、成虫をシート上に落とす。1圃場につき、3か所行う。

### 葉焼病の要防除水準

#### 1 要防除水準

開花期に発病葉率16.5%以上は、ただちに防除する。

#### 2 調査方法

開花期に圃場内で発生が多い場所を選び、10株以上の全葉数および発病葉数を調べ、発病葉率を求める。

## (2) 大豆薬剤一覧

RPA

病害虫名	防除時期	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考
紫斑病	播種前	キゲンR-270アブル	チカム水和剤	M3		乾燥種子1kg当り原液20mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルーザ-MAXX	チメキサム・フルジオキノール・メタキシムM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	開花後 20～30日	アミスター2070アブル	アジメチルピリン水和剤	11		2000～3000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		グッター水和剤	ジエトフェカルブ・チオフェネートメチル水和剤	1,10		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	
		ファンタジスタ70アブル	ビリンカルブ水和剤	11		1000～2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		フェキ70アブル	ビリンカルブ水和剤	53		16倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
					24～32倍	0.8%/10a	収穫前日まで	無人航空機による散布	3回以内		
		3000～4000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内					
	アミスタートレボーンSE	エトフェンブックス・アジメチルピリン水和剤	3A,1 1		1000倍	100～400%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内		
	トライ70アブル	テブプロリン水和剤	U16		8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
1000倍				100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内				
開花期後 15～30日	ゾートン粉剤DL	銅粉剤	M1		3kg/10a		-	散布	-		
葉焼病	初発時 (7月下旬頃)	フェスティバルC水和剤	ジメチル・銅水和剤	40,M 1		600倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
萎疫病	播種前	クルーザ-MAXX	チメキサム・フルジオキノール・メタキシムM水和剤	12,4, 4A		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
アブラムシ類	播種前	クルーザ-FS30	チメキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルーザ-MAXX	チメキサム・フルジオキノール・メタキシムM水和剤	12,4, 4A		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	生育期	マソソ乳剤	マソソ乳剤	1B		1000～3000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
	マソソ粉剤3	マソソ粉剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内		
アザミエ	播種前	クルーザ-FS30	チメキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルーザ-MAXX	チメキサム・フルジオキノール・メタキシムM水和剤	12,4, 4A		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
ネキリムシ類	播種前	クルーザ-FS30	チメキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルーザ-MAXX	チメキサム・フルジオキノール・メタキシムM水和剤	12,4, 4A		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
カミムシ類	若莢～子実肥大期 8～9月	アルパリン粉剤DL	ジノチラン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		エルザ乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		カスケード乳剤	フルフェキサズロン乳剤	15		32倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
					4000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内		
		スタークル液剤10	ジノチラン液剤	4A		1000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
					8倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	空中散布	2回以内		
					8倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
		スタークル粉剤DL	ジノチラン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		スミチオン粉剤3DL	MEP粉剤	1B		4kg/10a		収穫21日前まで	散布	4回以内	
		ダントツH粉剤DL	クロチン粉剤	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		トレボン乳剤	エトフェンブックス乳剤	3A		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		トレボン粉剤DL	エトフェンブックス粉剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)
		アミスタートレボーンSE	エトフェンブックス・アジメチルピリン水和剤	3A,1 1		1000倍	100～400%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
					8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
若莢～子実肥大期 8月	ダイヤノ粒剤5	ダイヤノ粒剤	1B		4～6kg/10a		収穫30日前まで	散布	4回以内		
	ミネトックスSC	シアントラニアロール・フルキサズロン水和剤	28,1 5		10000～12000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内		
				40～80倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内			
				80～160倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内			

病害虫名	防除時期	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本邦の使用回数	備考
シロイモジ マダラメイガ	若英伸長期	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1500～2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ダ イジ ノ粒剤5	ダ イジ ノ粒剤	1B		4～6kg/10a		収穫30日前まで	散布	4回以内	
		トボ ン乳剤	トフエンブ ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		バ マチオン水和剤	フェンバ レート・MEP水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300%/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	
		トボ ン粉剤DL	トフエンブ ロックス粉剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)
マシクイガ	子実肥大初期 8月	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ミネトエクストラスC	シアントリアブ ロール・ルフェスロン水和剤	28,15		10000～12000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						40～80倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
						80～160倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
ダ イジ サヤマバエ	開花終期～子実肥大初期 8月上旬～中旬	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100～300%/10a	収穫21日前まで	散布	4回以内	
						8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	4回以内	
		ダ イジ ノ粒剤5	ダ イジ ノ粒剤	1B		4～6kg/10a		収穫30日前まで	散布	4回以内	
クコンメイガ	7月下旬～8月 はじめ	ダ ントツH粉剤DL	クロチアジ ン粉剤	4A		4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		ブ レバ ソンアブ ル5	クロチアジ ン ロール水和剤	28		16～32倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
						4000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						ヨーバ ルアブ ル	チアトリアブ ロール水和剤	28		5000倍	100～300%/10a
					50倍	1.6%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
ハスモンクワ	生育期 若齢幼虫期	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		トボ ン乳剤	トフエンブ ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		トボ ン粉剤DL	トフエンブ ロックス粉剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)
		ブ レバ ソンアブ ル5	クロチアジ ン ロール水和剤	28		16～32倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
						4000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ベ ービ ーOD	シアントリアブ ロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		マトリックアブ ル	クロチアジ ン 水和剤	18		2000～3000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	
8～16倍	800mL/10a					収穫前日まで	無人航空機による散布	3回以内			
ハダニ類	生育期	マソソ粉剤3	マソソ粉剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
アサジヒメムシ	播種前	クルザ -FS30	チアトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ -MAXX	チアトキサム・フルジチキニル・メタラキシルM水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	8月下旬 第2世代発生期	アグ ロスリン乳剤	シベ ルマトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		アルバ リン粉剤DL	ジ ノチアリン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		スタークル液剤10	ジ ノチアリン液剤	4A		1000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		スタークル粉剤DL	ジ ノチアリン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
ダ ントツH粉剤DL	クロチアジ ン粉剤	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内			

### (3) だいでず注意事項

#### 紫斑病

- ・子実肥大期に雨が多いと多発する。
- ・種子伝染するので、優良種子を使用しクルーザーMAXXによる種子消毒を行う。
- ・耐性菌が発生している。
- ・耐性菌の発生を抑制するために、系統の異なる2剤を選択し、開花後20日目とその10日後（開花後30日目）に体系で散布する。
- ・アミスター20フロアブルは、開花後20～30日目の1回散布でも効果がある。

#### 葉焼病

- ・初発時に効果の高いフェスティバルC水和剤を施用し、病害の蔓延を防ぐ。
- ・発生が多いほど小粒比率が高くなり、減収する。
- ・里のほほえみで発生が多い。

#### 黒根腐病

- ・排水不良田での発生が多く、一度発生すると根絶することが困難。
- ・立枯れた株を抜くとゴボウ根になっており、手応え無く抜ける。株元に赤い子囊殻が発生することがあり、発生が広がると減収する。
- ・発生した圃場は3年以上水稻を作付けし、菌の密度を下げる。

#### カメムシ

- ・8月20日頃と9月10日頃の2回防除すると効果が高い。  
〔耕種的防除〕
- ・圃場周辺を除草する。

#### ダイズサヤタマバエ

- ・山間、山沿いで発生が多い。

#### ウコンノメイガ

- ・葉が巻きはじめる若齢幼虫期に防除する。
- ・山間、山沿いで発生が多い。

#### ハスモンヨトウ

- ・早期発見に努め、早めに防除する。
- ・白変葉が見え始めた時に、分散前に防除する。